

第 30 回 京都市西京まちづくり区民会議
摘 録

【日 時】令和 4 年 5 月 23 日(月) 午後 2 時～午後 4 時

【場 所】西京区役所 2 階 大会議室

【出席者】(敬称略, 五十音順)

- ・ 青木 祐子 京都信用金庫東桂支店支店長
- ・ 井上 学 龍谷大学文学部歴史学科教授
- ・ 小野寺 由美子 区民公募
- ・ 片岡 純治 新林学区自治連合会会長
- ・ 小石 玖三主 西京区自治連合会会長
- ・ 小原 喜信 大原野自治連合会会長
- ・ 白須 正 龍谷大学政策学部教授
- ・ 立花 満梨子 西京区社会福祉協議会評議員
- ・ 中島 清隆 西京保健協議会連合会会長
- ・ 藤本 英子 京都市立芸術大学美術学部教授
- ・ 松本 治行 西京区体育振興会連合会総務
- ・ 水上 象吾 佛教大学社会学部公共政策学科准教授
- ・ 宮崎 秀夫 西京区長
- ・ 安田 桂子 西京区地域女性連合会会長
- ・ 安田 淳司 西京区洛西担当区長
- ・ 山本 義博 桂学区自治連合会会長
- ・ 湯浅 文子 西京区民生児童委員会理事
- ・ 吉田 知史 区民公募

【内容】

1 開会

(1) 委員・事務局自己紹介

(2) 議長・副議長再任報告, 議長挨拶

(3) 事務局報告

「令和 4 年度の主なまちづくり事業」及び「西京区地域力サポート事業」について

2 意見交換

テーマ：第 3 期西京区基本計画の進め方について

「自分ごととして, 区民一人一人が行動を起こすには？」

(1) 各グループ発表内容

① A グループ(テーマ：地域の絆, 次世代の担い手)

[課題・現状]

自治会への加入率低下, 転入した子育て世帯の孤立化など, 地域のつながりが感じられにく

くなっている。

[取り組めること]

興味があることには参加したくなるはずであり、気軽に参加や協力ができるボランティアやお手伝いを通じて、自治会への興味へとつなげていきたい。伝統文化や子育て支援など、地域とのつながりを実感できる取組が、より地域への愛着を育む。また、イベントなどの参加者に片付けや資料配布などのちょっとした手伝いをしてもらうことも参画意識を変えるきっかけになる。

地域のことを考える意識を育てるには、地域の情報に普段から触れてもらえるよう、いかに情報を伝えるかの検討が必要だ。紙やHP、SNSなど様々な手段を検討し、地域内で得意な人に任せる、協力してもらえるような体制を整えて、地域の情報・魅力を伝え続ける仕組みを考えていきたい。

住んでいても話す機会が少ない住民も多く、自分のことを気軽に話せる居場所や相談できる人を見える化していきたい。また、挨拶が交流の起点となることも多く、見まもり活動時に、子どもだけではなく、通勤通学の人にも挨拶をするなど、気軽に声をかけやすい見まもり活動時などに働きかけることで、地域の一員としての実感や気づきを提供できるのではないかな。

②B グループ(テーマ：福祉，学術医療機関)

[課題・現状]

福祉については、基本計画自体が市民目線では分かりづらい専門的な内容になっており、難しい。また、学術医療機関については、各学術医療機関の公開イベントや出前講座などの情報がバラバラで分かりにくい。

[取り組めること]

福祉については、隣近所での支え合いの関係性が大切であり、子どもが誰にでも挨拶ができるような地域を目指したい。

学術医療機関については、各機関の公開講座や出前講座の一覧化やテーマを区民が求めているものとのできるだけマッチングさせる。情報発信をわかりやすくする。例えば、市民しんぶんのウェブ版の充実や区のホームページをアクセスしやすくする。

③C グループ(テーマ：公共交通，近隣自治体)

[課題・現状]

洛西地域は、通勤・通学に公共交通機関を使う人が減っており、危機的状況である。また、西京区は桂離宮や花の寺などがあり、観光地としての地位が昔は高かったが、今は交通不便も相まって観光地としての認識が落ちてきている。

[取り組めること]

洛西地域などでは、通勤・通学以外で公共交通機関に乗る仕掛けが必要である。市バス 90 分貸し切りツアーなど、特別感があり、乗るのが目的となるような取組をつくる。また、子育て世代にも乗車してもらう体験会の開催や、敬老乗車証を取得する前から公共交通機関に乗ってもらい、老後に利用しやすい工夫づくりが必要である。利便性向上の面では、区内循環バスやコミュニティバス、洛西では自動運転走行なども可能ではないか。さらに、洛西地域や向日市、長岡京市など、西山エリアの観光滞在時間をのばせるように、西山エリアの 1 日乗車券をつく

るとともに、長岡京市や向日市と連携をして、西山として魅力をさらに発信することが重要ではないか。

④D グループ(テーマ：地域経済・職住近接、公園)

[課題・現状]

西京区は住宅地のイメージが強い。上桂はベッドタウン化している。亀岡、桂川駅周辺は開発が進んでいる。大原野は、生活圏として「乙訓」としての意識がある。

ライフスタイルの変化で、子育て層も働く場や起業の選択肢を模索している。

竹林公園の子どもの広場は、週末にかけてにぎわっている。

[取り組めること]

西京区は、住宅地という切り口から、医療福祉の充実や職住近接などの利点をPRできるはずだ。近隣都市と都市間連携を図れば30万人規模になり、より観光もビジネスも活性化できる。儲けるというよりは、自然と調和した西京区にあった商売の形を検討していく必要がある。子育て層向けに職住近接モデルツアーなども良いのではないかな。

また、公園を資産として捉え、地域の人が公園を利活用できるように、賑わいづくりの起点となればよい。例えばドッグランや園芸店が運営する公園などがあると良いかもしれない。

(2)副議長よりまとめ

(藤本委員)

週末に岩手に行き、大きな災害の少ない京都の有難さを改めて感じた。災害では自分の命を守るのが第一だ。自分が足元を固めてこそ、他人に手を差し伸べることができる。また、いつ何が起こるか分からないなかで、日常を大切に、日常生活で常に行動を起こして考え続けていくことが重要だと思う。

3 閉会

(事務局)

今年度の予定としては、あと2回程度開催したいと考えている。日程等については改めて調整させていただきたい。

以上